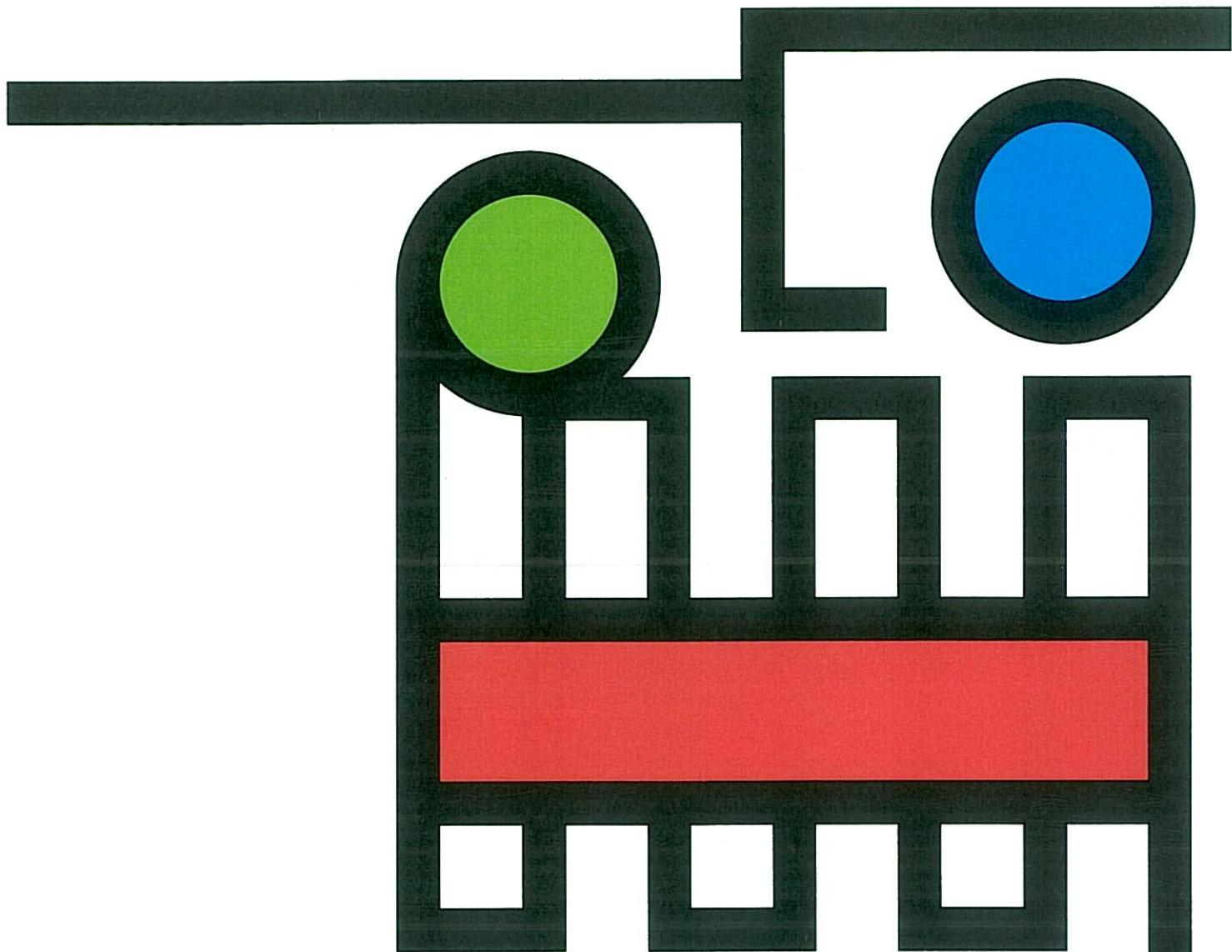


日本アンチエイジング歯科学会誌

The Journal of Japan Society for Dental Anti-Aging

Inaugural Preparatory Issue

創刊
準備号



日本アンチエイジング歯科学会
Japan Society for Dental Anti-Aging

<http://www.jd-aa.net/>

新しい学会誌のDNA

学会誌って何かと考えると、やはり正式な書面での研究発表の場、意見発表の場、あるいは、学会におけるさまざまな情報伝達の間ということなのかもしれない。しかし、多くの学会誌は形式にこだわり、他分野の学会と肩を並べることで権威主義に君臨し、そのことを学会設立当初の目的としてしまうのではないだろうか。

日本歯科漂白研究会から日本アンチエイジング歯科学会に名称が変更され、その領域や内容が拡大されたことで、これまでの日本歯科漂白研究会学会誌『歯科漂白』と同じ人格を与えることはできなくなった。漂白研究会のころは、まだ漂白法とその周辺美容歯科領域を扱っていたので、既存の学会と同様に基礎医学とその臨床応用に関する領域を扱う医学攻究に寄与した学会誌の役割を果たしていれば十分であった。しかし、アンチエイジングとなれば時間軸を伴った総合医療だけに、一元的な基礎研究や多元的な臨床応用だけでなく、次元を超えた領域を包括していかなければ到底成り立ちえない医学攻究モデルである。

編集者としては新しい時代を生き抜く学会誌になるだけに、学会における方針に十分なコンセンサスが得られていない状態で新しい学会誌を生み出すにはもう少し時間が必要であり、今すぐ創刊すべきではないと感じていた。当初から3年は必要であると踏んでいたので来年の秋を目標に、目下生みの苦しみに悩まされていたところである。しかし、学会誌がなかなか誕生しない学会の活動に胸を痛めていた会長の心中からは、孫の誕生を待つ親の気持ちに似た想いが伝わってきた。すぐれた学会誌を生み出すことを模索することより、先に生むことが大事だったのである。まさに学会にとっては生存の欲求のレベルの話である。会長は学会誌を育て上げるのは、会員一人ひとり、つまり学会という社会が受け持つべきであるという考え方を説かれた。

生みの親としてはもう少し将来を見据えてこの新しい学会誌が自己実現できるようにとしっかりとDNAを仕込んでおきたいと思い、もう少しすぐれたDNAを確保してから創りたいと思ふにも思ふわけである。いずれにしても、目を通す気にもなれない権威主義、形式主義の既存の学会誌のような育ち方はしてもらいたくない。いくつになってもすべての会員に愛され、隅々まで目を通してもらえる大切にされる子に育ってもらいたい。そして、他分野のさまざまな方にも重宝がられるチャージングな一面も併せ持つてもらいたいと思うのである。

天井久代, 中原悦夫

日本アンチエイジング歯科学会役員 (2007年1月1日~2008年12月31日)

会 長	松尾 通	常任理事	松丸 和郎	理 事	杉山 義祥
副会長	久光 久	監 事	寺川 國秀	〃	添島 義和
副会長	田島 伸也	〃	日吉 祥江	〃	高橋 眞一
専務理事	市川 信一	理 事	石河 信高	〃	武田 英司
常任理事	阿部 馨三	〃	井堂 知純	〃	田中 讓治
〃	金子 紳	〃	猪苗代 雅俊	〃	津田 忠政
〃	金藤 哲明	〃	小田部 誠治	〃	直江 昌利
〃	酒井 珠材	〃	大原 盛勝	〃	中込 敏夫
〃	相良 俊男	〃	香川 芳江	〃	永瀬 佳奈
〃	佐藤 二三江	〃	片山 直	〃	永山 正人
〃	佐藤 元彦	〃	倉治 なのえ	〃	橋場 千織
〃	佐野 修司	〃	蔵前 勝彦	〃	藤井 幸
〃	島村 大	〃	黒瀬 清	〃	古田 昭臣
〃	宝田 恭子	〃	後藤 吉平	〃	松田 裕文
〃	坪田 健嗣	〃	近藤 昌嗣	〃	丸尾 謙二
〃	椿 智之	〃	齋藤 哲也	〃	森 章
〃	天井 久代	〃	坂本 洋介	〃	矢野 匡
〃	富澤 恵子	〃	佐藤 孝	〃	山岸 一枝
〃	永井 茂之	〃	庄内 淳能	〃	渡部 圭吾
〃	中原 悦夫	〃	上代 久夫		
〃	松岡 永治	〃	菅井 敏郎		

日本アンチエイジング歯科学会誌

創刊準備号

印刷 2007年12月15日
発行 2007年12月20日

発行者

日本アンチエイジング歯科学会
〒150-0044
東京都渋谷区円山町5-4
フィールA渋谷201号
Tel/Fax 03-3477-1085

制作者

(財)口腔保健協会
〒170-0003
東京都豊島区駒込1-43-9
Tel 03-3947-8894
Fax 03-3947-8873

印刷所 社光舎印刷株式会社